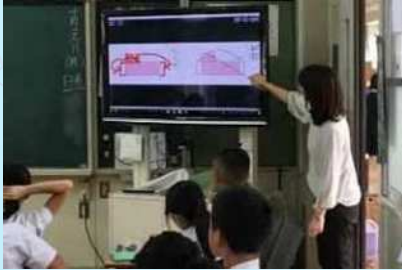


【参考資料】

令和6年7月更新

ICTを効果的に活用した指導例①

① 一斉授業



端末と電子黒板を併用して児童生徒の意見等を提示し、児童生徒に互いの意見、考え方、作品等を共有させたり、比較検討させたりすることを通して学びを深めさせています。

一斉授業において、どのように1人1台端末を使うかは、それぞれの先生方のこれまでの授業実践との組み合わせの中で、様々な方法が考えられますが、例えばこのように、複数のICT機器の組み合わせによって、児童生徒により協働的な学びをさせることが可能になります。

② 個別学習 ～個別最適な学習～



個々の児童生徒の理解状況に沿った学びが可能となるよう、演習問題のソフト等を授業の教材に取り入れている市町村教育委員会や学校も増えてきました。

国においてもMEXCBTの実証研究も進み、授業や家庭学習等においてどう効果的に活用するかが、とても重要になってくると思われます。

県教委においても、現在、県内の3中学校においてAI教材の効果的な活用について実証研究を実施しています。

ICTを効果的に活用した指導例②

③ 協働的な学習 ～端末の標準的な機能でも可能な活用～



運動の様子をカメラで録画し、その動画をコマ送りやスロー再生させてお互いに見ることで、運動のコツを見つけ合うという学習です。

繰り返し再生したり、巻き戻したりすることで、何度も動きを確認することができます。

この取組は、端末に標準的に入れられているカメラアプリで行われたものです。

このように、特別なアプリ等を入れなくても、端末の標準的な機能だけでも可能な活用方法はいくつもあります。

④ 協働的な学習 ～学習支援アプリケーション等の活用～



学習支援アプリのJamboard (Google) を使って、学級の友達の考えをグループ分け(類型化)し、それを基に自分なりの考えを整理していく学習です。

1人1台の端末の環境が整ったことで、それぞれの考えを短時間で且つ簡単に集約したり、類型化させたりすることが可能になりました。

協働的な学びに活用できるアプリも増えてきましたし、県域教育用アカウントで無料で使用することのできるツールもあります。

ICTを効果的に活用した指導例③

⑤ 遠隔教育システムを活用した学習 ～小規模校・複式学級の指導の充実～



学校の通信環境が整ってきたことで、遠隔教育システムを効果的に活用し、小規模校同士や複式学級同士をつないだ合同学習を行っている学校も増えてきました。

児童生徒同士の意見の交換や共同作業等が可能になったことで、多様な意見が出にくく、考えを広げさせたり深めさせたりするのが難しいといった小規模校や複式学級における課題の解決につながるのではないかと思います。

⑥ 遠隔教育システムを活用した学習 ～新たな学びの創造～



離島の学校と鹿児島市の業者が遠隔教育システムでつながり、鹿児島県を地元とするサッカーチームのユニフォームを考案するという学習です。

このように、学校同士だけでなく、企業や様々な団体とオンラインで学習するという、これまでなかなかやりたくても難しかった新たな学びも生まれています。

この他にも工場や職場の見学等を遠隔教育システムで行うなどの取組を行っている県内の学校もあります。

ICTを効果的に活用した指導例④

⑦ 遠隔教育システムを活用した学習 ～免許外教科担任の課題に対応する遠隔合同授業～



三島村の学校においては、遠隔教育システムによりA校とB校をつなぎ、A校の教科担任（有免許）がT1、B校の免許外教科担任がT2となり、T1が主導して授業を行う取組をしています。

こうすることで、生徒の学習内容の確実な定着をと免許外教科担任の負担軽減を図っています。

⑧ 遠隔教育システムを活用した学習 ～遠隔地のALTと、2つの島の学校を結ぶ英語の授業～



また、三島村では、英語の授業において、ALTが三つの島を行き来することが困難なため、遠隔教育システムで3島の中学校を結んで、生徒がALTの指導を受けられるようにしています。

天候で往来が左右される離島を多く有する鹿児島県ならではの取組の一つと言えるかもしれません。

【参考】文部科学省ホームページ（遠隔教育システム活用ガイドブック第2版）
【URL】https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1404422.htm

ICTを効果的に活用した指導例⑤

⑨ 特別な支援を要する児童生徒への学習指導等(1)



朝の準備や活動について、タブレット端末を見て確認することで、児童生徒に対して次の活動に見通しをもたせやすくするという取組です。

学びにくさやコミュニケーションに困難を感じている児童生徒に対しては、このように、理解や意思表示を支援するようなICT機器の活用が有効です。

⑩ 特別な支援を要する児童生徒への学習指導等(2)



肢体不自由の生徒が、板書をタブレット端末のカメラ機能を利用して撮影、印刷することで、書き写すための時間を大幅に短縮することができます。

身体の障害による学習上の困難については、障害の特性に応じたICT機器を効果的に活用することが考えられます。

ICTを効果的に活用した指導例⑥

⑪ 学校と家をつないだ学習指導



家庭に端末を持ち帰らせ、家庭学習にICTを活用することにより、学校の学習内容の理解や習熟を高めることができます。

当然、家庭学習の個別最適化にもつながり、個の理解状況に応じた家庭学習に取り組ませることができます。

県内でも既に、日常的に端末を持ち帰らせ、家庭でICTを使った学習に取り組ませている市町村教育委員会や学校があります。

⑫ やむを得ず登校等ができない児童生徒への学習支援



臨時休校時や不登校等、やむを得ず登校等ができない児童生徒に対する支援等の際に、教室と家庭を結び、双方向で行うオンライン学習は、児童生徒の「学びの保障」につながります。

「必要になったら考える。」では対応が遅れ、やむを得ず登校等ができない児童生徒やその保護者の不信感にもつながりかねません。

どのような状況でも、児童生徒の学びを止めないために準備をしておきましょう。

ICTを効果的に活用した指導例⑦

⑬ 遠隔教育システムを使った特別活動



新型コロナウイルス感染症対策で「三密」を避けるため、全校朝会や生徒総会などを遠隔教育システムを使って行う取組は、どの学校でも行われるようになってきているようです。生徒会長選挙を生徒の発案で、Google Formを使って行ったという県内の中学校もあります。

なかなか集団での活動が難しい状況が続いていますが、多くの学校で、コロナ禍においても活動を中止せずに、実施する工夫が行われています。

⑭ ICTと記述を織り交ぜたテストの実施



テストの際に、白黒では見づらい写真やグラフなど、はっきり見せたいものを端末で配信し、生徒に解答させるという県内のある中学校の取組です。

これまで一斉にせざるを得なかった聞き取りの問題を、それぞれ解きたい時に解かせたり、動画を視聴してから問題を解かせたりするなど、これまでできなかった問題ができるかもしれません。

ICTを効果的に活用した研修等例

⑮ 講師にオンラインで参加してもらう研修の実施



既にごく普通の取組となっているかもしれませんが、講師に遠隔教育システムを使って、オンラインで研修に参加してもらうという取組です。

これまで、「講師を呼びたくても離島なので…」ということがありました。研修の内容にもよりますが、遠隔教育システムで研修を行う取組も今は簡単にできるようになりました。

現在、県教育委員会で実施している「プログラミング指導教員養成塾」も、コロナ禍もあり、講師にはオンラインで参加いただいています。

⑯ KagoGIGA情報交流室, KagoGIGAミーティング



県内の多くの市町村教育委員会や学校に負けないよう、県教育委員会でも、オンラインを使った取組を進めています。

令和3年度の10月に、県内の全ての教職員が利用することのできるオンライン上の情報共有・交流の場として、Microsoft Teamsを使って、「KagoGIGA情報交流室」を開設しました。(令和4年2月末現在、登録者数421名)

また、「KagoGIGA情報交流室」の中で、県内の全ての教職員を対象としたオンラインミーティング「KagoGIGAミーティング」を開催しています。(これまで2回開催)